テーマ展「蓬莱―寿ぎの文様―」展示作品リスト

番号	作品名称	員数	制作者	制作年代	所蔵
蓬莱 ― 遙かなる理想郷 ―					
1	そばつぎ　こんじなみ　せんとうもんよう 側次　紺地波に仙島文様	1領		江戸時代 (裂は中国・清時代)	彦根城博物館
2	たけとりものがたり 竹取物語	1冊	八之宮良純親王	江戸時代	彦根城博物館
3	とうばきしんほうらいず 東坡祈神蓬莱図	1幅	富岡鉄斎	明治時代	個人
4	あらいそはなもんみずさし 荒磯花文水指	1口		中国・明時代	彦根城博物館
5	きっかもんかさねすずりばこ 菊花文重硯箱	1口	常川	江戸時代	彦根城博物館
6	げんきゅうえんず 玄宮園図	1幅		江戸時代	彦根城博物館
寿ぎの蓬莱意匠					
〈蓬莱台と蓬莱飾り〉					
7	じゅらくぎょうこうき 聚楽行幸記	1冊		桃山時代 天正16年（1588）	彦根城博物館
8	しきあそびず 四季遊図	1巻		江戸時代	彦根城博物館
9	おがさわらけごせっくとこかざりず 小笠原家五節句床飾図	1冊		江戸時代 延宝5年（1677）成立、 文化15年（1818）写	彦根城博物館
10	おがさわらりゅうかざりききがき 小笠原流飾聞書	1冊		江戸時代 元禄5年（1692）成立	彦根城博物館
11	なおすけさまごこんれいおんきしきおんこんだてちょう 直弼様御婚礼御規式御献立帳	1冊		江戸時代 嘉永2年(1849)	彦根城博物館
(参考)	ほうらいかざりさいげん 写真「蓬莱飾り再現」	1枚		現代	
〈蓬莱の文様〉					
12	ほうらいず 蓬莱図	6曲1双	狩野英信	江戸時代	彦根城博物館
13	ほうらいもんまるかがみ わかまつ　たちばなもんかがみばこ 蓬莱文円鏡・若松に橘紋鏡箱	1式		江戸時代	彦根城博物館
14	ほうらいもんえかがみ かいぶもんかがみばこ 蓬莱文柄鏡 ・ 海賦文鏡箱	1式		江戸時代	彦根城博物館
15	たかさごじほうらいもんえかがみ 高砂字蓬莱文柄鏡	1枚	藤原家里	江戸時代	個人
16	ほうらいもんこうぐばかり 蓬莱文香具秤	1組		江戸時代	彦根城博物館
17	ほうらいもんけは 蓬莱文華葩	17枚		江戸時代	彦根城博物館
18	ほうらいもんしゅうのうばこ　あまがつ つけたり 蓬莱文収納箱（天児 付）	1合		江戸時代	彦根城博物館
19	ほうらいもんかねふでばこ 蓬莱文鉄漿筆箱	1合		江戸時代	彦根城博物館
20	りゅうすいかめもんながふばこ 流水亀文長文箱	1合		江戸時代	彦根城博物館
21	まつばやしもんすはまがたこうごう 松林文洲浜形香合	1合		江戸時代	彦根城博物館
〈能にみる「蓬莱」〉					
22	ほうらいもんちゅうけい 蓬莱文中啓	1握		江戸時代	彦根城博物館
23	ほうらいもんちゅうけい 蓬莱文中啓	1握		江戸時代	彦根城博物館
24	おきなめん　はくしきじょう 翁面　白色尉	1面		江戸時代	彦根城博物館
25	おきなかりぎぬ 翁狩衣	1領		江戸時代	彦根城博物館
26	うたいぼん　げっきゅうでん 謡本「月宮殿」	1冊		江戸時代	彦根城博物館
27	つるかんむり・かめかんむり 鶴冠・亀冠	1対		大正時代	彦根城博物館
〈和菓子にみる「蓬莱」〉					
(参考)	かし　よも　しま　とらやせい 写真　菓子「蓬が嶋」虎屋製	1枚		現代	虎屋文庫提供
(参考)	とうとみずやちょう 写真「東都水屋帳」	1枚		江戸時代	彦根城博物館
(参考)	たがしゃくしかしき 多賀杓子菓子器	1枚		江戸時代	彦根城博物館

写　真　解　説

1　側次　紺地波に仙島文様　　1領（作品リストNO.1）

江戸時代(裂は中国・清時代)

丈102.2cm　裄68.1cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

中国・清で制作された官服を仕立て直した作品。側次と呼ばれる能の装束の一つで、略式の甲冑姿の武士や唐人の役に用いられます。

本作は、艶のある繻珍という生地に、糸を部分的に織り込んで文様を表現する縫取織で模様を表しています。裾に、荒波の中の険しい岩島が描かれ、島の周りを鳳凰が飛び、雲気が立ちこめる様子が表されています。霊気漂う岩島の表現は、仙人の住まう場所と古くから信じられてきた仙島、蓬莱山を想起させます。

裾部分▸

2　小笠原家五節句床飾図　　1冊（作品リストNO.9）

江戸時代　延宝5年（1677）　成立、文化15年（1818）写

縦27.4cm　横18.9cm

当館蔵(井伊家伝来典籍・井伊家12代直亮収集品)

江戸時代に徳川将軍家の公式礼法として採用された小笠原流の礼法を伝える書。人日、上巳、端午、七夕、重陽の五つの節句をはじめとする祝賀儀礼で行う飾りの詳細を記しています。

写真は、正月の飾りで用いる「手掛蓬莱之台」についての部分。「蓬莱台」とは、蓬莱山をかたどった作りものを載せた台で、平安時代の頃から祝宴の飾りや婚礼の祝儀物として用いられました。後に、蓬莱山の作りものに代わり、本図のような子孫繁栄や長寿のいわれのある食べ物を載せたものも現れました。「手掛」とは、正月の祝賀に訪れた客に出す食べ物を載せた蓬莱台のこと。主と客が手掛の食べ物を共に食すことにより、一年の幸を祈願しました。

この写真の部分には、「代々栄える」に音が通じることから縁起物とされた橙をはじめ、吉祥尽くしの品々を台上に並べる様子が記されています。

▲米、橙、蜜柑、神馬草、栗、ウラジロ、ユズリハ、柿、熨斗鮑、田作、昆布、野老、梅干、海老、ハゼ、数の子、根引き松、山橘（ヤブコウジ）を並べる旨が記されている。

3　蓬莱文円鏡・若松に橘紋鏡箱　1式（作品リストNO.13）

江戸時代

径12.3cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

白銅製の円鏡。鏡背に洲浜と松竹、橘、鶴亀を彫り出し、伝説の仙島、蓬莱を表しています。穏やかな漣や生命力あふれる木々、仲むつまじい鶴の親子など、平和な理想郷としての蓬莱の姿が描き出されています。蓬莱が、荒波に囲まれた孤高の仙境という原初的な姿から、日本人の好みに適う吉祥の趣に満ちた理想郷へと変化した様子をうかがい知ることができます。

鏡と、鏡を収める鏡箱の双方に井伊家の家紋である橘紋があしらわれており、婚礼調度として誂えられたと考えられます。

鏡背部分▸

4　蓬莱文華葩　17枚のうち1枚（作品リストNO.17）

江戸時代

縦11.1cm　横9.1cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

花を撒いて仏を供養する散華で用いる華葩。もとは生花が使われましたが、後に、本作のように蓮弁形の紙に彩色したものも用いられるようになりました。

本作は、日光東照宮における法会で用いたと伝わるものです。亀の甲羅の上に島を載せ、島上に松竹梅、上空に飛鶴を組み合わせた蓬莱文を描いています。背に岩山を載せた亀の表現はいかにも奇怪ですが、これは、蓬莱が根をもたない島であり、亀によって支えられていると考えられたためです。

5　蓬莱文中啓　1握（作品リストNO.22）

江戸時代

幅51.0cm

当館蔵(井伊家伝来資料)

松竹梅と鶴亀、波という典型的な蓬莱の意匠が表された扇。能で用いる小道具で、中啓と呼ばれる種類の扇です。中啓は、扇の両端の最も太い骨の上端を外へ反らし、畳んでも半ば開いた形となるように作ったものです。

蓬莱文を表した中啓は能の演目「翁」専用とされ、翁扇と呼ばれます。「翁」は、翁姿の神が、祝賀などの際に天下太平、国土安穏を祈願して舞い、世を寿ぐという内容の演目。神として世を寿ぐ翁にふさわしい意匠、それが蓬莱であると言えるでしょう。

本作は、背景に金箔を貼り詰め、一つ一つのモチーフを濃彩で描いており、蓬莱の神々しさと華やかさ、めでたさが全面に表現されています。